緑とビーチにあふれる街 「シドニー」

街plus
探訪

京都工芸繊維大学 梅原大祐 Daisuke Umehara

1 なぜ、シドニーに？

私は本稿を執筆している 2018 年 2 月現在、オーストラリアのシドニーに住んでいます。京都工芸繊維大学のスーパーグローバル大学創成支援事業の一環で、2017 年 4 月から 2018 年 3 月まで University of New South Wales (UNSW) の School of Electrical Engineering and Telecommunications (EET) で Visiting Fellow として働いています。現在、EET School の建物は改修中で、今回の滞在期間中は UNSW 内の Hilmer Building に自分の机があり、この建物の 8 階からは競馬等が使われる Royal Randwick Racecourse を眺めることができました（図 1）。Hilmer Building は平日の 8 時から 18 時までは開いていますが、それ以外の時間帯に入るためにはスタッフの ID カードが必要となります。平日の 18 時以降はスタッフと学生のほとんどが帰宅している印象を受けました。このシドニー滞在期間中、公園とビーチに囲まれた Waverley Suburb のホストファミ

リーのもとでホームステイをしています。シドニーには多数の観光名所がありますが、それらの紹介は市販のガイドブックに任せて、私のシドニーでの生活を中心に書きたいと思います。

2 シドニーでの ホームステイ生活

図 2 の写真は、ホストファミリーの家を表から撮ったものです。この家にはホームステイ用に 3~4 部屋あり、私は 1 階の部屋を使っています。家の裏には芝生で覆われた庭があり、週 1 回の洗濯物はその庭で干しています。ホームステイではオーストラリアの一般家庭の夕食が楽しめます。ホストファミリーはシドニーの観光名所もいろいろと教えてくれて、この家に来た初日には図 1 の地図にある Bronte Beach から Bondi Beach への遊歩道の散策を勧められました。Bronte Beach までバスで行ってそこから Tamarama Beach, Bondi Beach, Waverley Park と経由してホストファミリーの家まで歩きました。

図 1 Waverley の周辺地図

図 2 ホストファミリーの家

図3 2018年1月のシドニーの最高気温と最低気温
(<https://www.accuweather.com/>)

ホストファミリーの家族とその友人はもちろん、シドニーへの留学生やワーキングホリデーで来た若者など多くのホームステイに来られた方々と知り合うことができ、日本で暮らしていたときには思いも寄らなかった人たちとの交流ができました。日本の生活とは異なる文化や人間関係を経験することはホームステイの一つの魅力かと思います。Randwick SuburbにあるRandwick Town Hallでは、4~12月の期間、月に1回、各地で音楽活動をしている方たちを招いてのコンサートが開催されます。ホストファミリーの皆さんはこのコンサートを楽しみにされていて、私も何回か連れていってもらいました。このように、シドニーにあるSuburbでは市民の暮らしを豊かにするためのイベントがいろいろと企画されている印象を受けました。

平日はUNSWの食堂で昼食を取りました。休日の昼食はBondi Junction駅沿いの通りにある弁当屋さんで、弁当を購入して通りのベンチで食べることが多いです。マクドナルドの基本的なセットメニューで10 AUD (オーストラリアドル) 近くしますので、シドニーでの外食は日本と比べて高くなりがちですが、この店の弁当は2~4.5 AUDで手に入り、他と比べてかなりの格安です。オーストラリアの最低賃金が1時間当たり18.29 AUDで京都府の最低賃金の2倍近くしますので、シドニーの物価が高いのも納得しました。現地の方にとっては適正な価格であるのかと思います。

2018年1月7日にシドニーで47.3°Cという気温が記録されました。(シドニー全域の平均最高気温は44°Cでした。)これは80年近く前の1939年に記録された47.8°Cに次ぐ高い気温であり、日本でも報道されたためSkypeで話していた家族に心配されました。幸いにして日曜日で外には出ずに涼しい1階の部屋にい

たため、この日の暑さで大変な目には遭いませんでした。シドニーの夏は暑くて大変そうに思うかもしれませんが、2018年1月の気温データ(図3)から分かるように、ある日の気温が高くてもその気温が長くは続かないので、暑さで大変な日は少なかったように思います。また、基本的に湿度は低く、蒸し暑くはありません。特に、1階の自分の部屋にいたとかなり涼しく感じます。家にはエアコンはありませんが、夏に冷房が必要と覚えることはありませんでした。ただし、晴天の日は太陽の日差しが強いので、特にビーチに行くときはサングラスと日焼け止めは必須です。

3 シドニーの交通

シドニーでは、鉄道・バス・フェリー等の交通機関で移動するのに、Opal cardというチャージ式ICカードを使います。チャージはインターネットを介しても可能です。なお、現在は、切符は販売されていません。地域により交通系ICカードは異なり、12月に国際会議で訪れたゴールドコーストではOpal cardは使えずgo cardが必要となりました。Opal cardにはデポジットはありませんが、go cardは10 AUDのデポジットがあります。デポジットは払い戻しも可能ですが、ゴールドコースト空港内では払い戻しできる場所がないので今も持っています。オーストラリアのどこでもOpal cardが使えるようになってほしいと思いました。Opal cardでは、1日の支払い上限が定められていて月曜日から土曜日までは15 AUDで、何と日曜日は2.5 AUDです。日曜日はシドニーのいろいろな所に行ったとしても交通費は2.5 AUDだけで済みます。また、月曜日をスタートとして、1週間にOpal Cardを8回利

用したときに、その週の日曜日まで、以降の運賃は半額になります。シドニーは観光が盛んですが、このような公共交通機関の運賃サービスが一役を買っているのではないかと感じました。

UNSW への通勤にはバスを利用しました。平日の往復に利用するだけで1週間に合計10回バスに乗ることになりますので、たいてい金曜日のバスの運賃は半額になります。

図4は、家の近くのバス停から撮ったバスの写真です。写真のとおり、シドニーの歩道には、芝生と木によるグリーンゾーンが多いのが特徴です。シドニーでは歩行補助車を使っている方が多いのですが、そういう方でもバスに乗りやすいように、ほとんどのバスの出入口は階段ではなくフラットになっています。また、歩行補助車の利用者が乗降しやすいようにバスの出入口の高さが下がるようにバス全体が傾きます。バスの中には、歩行補助車やベビーカーを使っている方のためのスペースが用意されています。このように、シドニー全体でバリアフリーがしっかりしている印象があります。ただし、バス内で駅名とかのアナウンスは一切ないので、私は自身のスマートフォンの google map

図4 バスとグリーンゾーン

図5 フェリーから撮った Circular Quay

で降車するバス停を確認していました。なお、google map を使って経路検索すると、バスの遅延状況 (Delayed 3 min など) を含めて表示されます。京都ではバスの到着時間は確認できますが、遅延状況までは確認できません。日本でも、交通機関の遅延状況を表示するサービスができればよいと思いました。

オーストラリアでは日本と同じ右ハンドル・左車線ですので、日本で車を運転する感覚で車の運転ができるものと思います。また、筆者がシドニー滞在中は、普通自動車を運転する場合、日本の運転免許証を含む必要な書類を用意して視力適正試験を受ければ、学科試験と運転技能試験なしで New South Wales 州の運転免許証を取得することができました。ただし、申請者によってはこれらの受験を求める場合もあるとのこと。今回、私は運転免許証を取得しませんでした。身分証明として運転免許証は有用ですので、シドニーに長期滞在する次の機会があれば取得してみたいと思います。

Opal card 一枚で、Bondi Junction 駅から Martin Place 駅まで鉄道に乗り、Circular Quay のフェリー乗り場からフェリーに乗ることができます。図5の写真は、出発したフェリーから撮った Circular Quay です。オーストラリアのシンボルであるオペラハウスはこの写真の場所から近くにあります。オペラハウスの北には、たまにアザラシがやってくるらしいです。日本にいる息子はアザラシが大好きですので、残りの1か月のうちに写真に収めたいのですが、難しいかもしれません。

4 シドニーでの散策

ホストファミリーの家の近くには、多くの公園があります。中でも一周するのに1時間はかかる大きな公園である Centennial Park には散策と読書でよく行きました。また、UNSW に行く途中にありますので、天気の良い日には Centennial Park 内を通って、徒歩で UNSW に行くこともありました。

図6は、公園内の湖に面したベンチがあるところの写真です。このように公園内には至る所にベンチがあり、休憩ができるようになっています。特に、写真のように、木陰にあるベンチはシドニーの強い日差しを避けられるので、気持ち良く読書ができました。シドニーの多くの家庭は、犬や猫を飼っています。Centennial Park には、犬の散歩で訪れる方がたくさんいました。読書をしていると犬が近付いてきて、顔

図6 Centennial Park 内の湖とベンチ

図7 Centennial Park のコクチョウ

や手をなめられることもありました。

オーストラリアにはハクチョウはいなくて、くちばしが赤く羽毛が黒いコクチョウ（図7）がいます。コクチョウはオーストラリアの固有種で、他の大陸へ渡ることはありません。ハクチョウとは種が異なりますが、色以外は非常に似通っています。Centennial Park 内にも多くのコクチョウがいて、私の目を楽しませてくれました。

5 シドニーでのビーチイベント

図1の地図に書かれているように、シドニーの海岸にはたくさんのビーチがあります。地図にはありませんが、ホストファミリーに、シドニーの北部の Dee Why Beach やシドニーの南部の Dolls Point Beach に連れていってもらったこともあります。そして、ビーチではいろいろなイベントが開催されます。

図8は2017年9月10日に Bondi Beach で開催された Festival of the Winds の写真です。この Festival では、日本の日常では余り見られなくなった、たこを揚げて楽しむイベントです。図8では、ビーチで連だこやシャチの形状をしたたこなど、多彩なたこを揚げて見られます。この Festival の日に限らず、Bronte Beach 沿いの公園でもたこ揚げを楽しんでいる

図8 たこ揚げもある Bondi Beach フェスティバル

子供たちを見ましたので、自分が小さかった頃のように普段からたこ揚げを楽しめる場所があるのは羨ましく感じました。

2017年10月19日から11月5日の期間で開催された Sculpture by the Sea では、Bondi Beach と Tamarama Beach の間の海岸線沿いの遊歩道でいろいろな国の彫刻家の作品が展示され、多くの方が鑑賞して楽しんでいました。鑑賞していたときには確認していませんでしたが、10数名の日本人の作品が展示されていたようです。

6 むすびに代えて

ホストファミリーとの生活を通じて、シドニーの方々は家族や友人との時間を非常に大切にしていると感じました。また、他の国の歴史や文化に関する話題を好み、それらが人間としての深みを与えているように思います。クリスマスと正月を含む期間はオーストラリアの夏休みですが、私がある間に帰国して日本にいる家族と過ごさないことに、皆さん信じられない思いを抱いたようです。日本に帰国した後は、人間としての深みが生まれるようなライフスタイルを確立していきたいと思います。

梅原大祐（正員：シニア会員）

1999 東工大大学院理工学研究科博士後期課程了。同年から京大に助手として着任。2011-03 から京都工芸繊維大学、現在同大学教授。2017-04~2018-03 に、UNSW の Visiting Fellow として勤務。通信路モデル化、変調・符号化方式、MAC プロトコルの研究に従事。